

# 共に

塩尻市生涯学習部男女共同参画・人権課

塩尻市大門七番町4番3号  
 TEL：(0263) 52-0280 内線3151  
 FAX：(0263) 54-2705  
 Eメールアドレス：kyoudou@po.city.shiojiri.nagano.jp

- 特集 ～ 家庭における男女共同参画 ～ Part 1 意識編
- 防災と災害復興と男女共同参画 参加報告 ● 今後の予定 ● 相談案内

## ～ 仕事も家庭も地域活動も男女共に ～



### 家庭における男女平等意識



平成22年度塩尻市男女共同参画意識調査 男女平等意識について (抜粋)

平成22年度の意識調査では、家庭内において男女平等と回答している人が、男性・女性ともに一番多かったが、男性と女性では12.5%の差がありました。

実際にどのようなことに不平等を感じているのか、さまざまな年代の方にお聞きしましたので中面をご覧ください。



男女共同参画



# ～ 家庭における男女共同参画 Part 1：意識編 ～



今回は、自分の家庭内での男女共同参画についてどのように思っているかを各年代の皆さんにお聞きしました。

## Q1：「男女共同参画」という言葉を知っていますか？

- 20代～30代（女性・男性）：知っている。  
（男性）：知らない。
- 40代～50代（女性）：知っています。男女と一緒に協力し合うことだと思います。  
：聞いたことはないです。
- 60代～70代（女性・男性）：聞いたことがある。



## Q2：「男女共同参画」に対するイメージは？

- 20代～30代（女性）：まだまだ深くは浸透していない気がする。  
（男性）：男女と一緒に事をすすめるというイメージです。  
：男は外、女は内という世の中でしたが、男女共同参画がうたわれて、社会に男女が協力することが確立されてきたというイメージです。
- 40代～50代（女性）：お互いに思いやりを持って、できることを分担する。  
：若い人たちは自然に協力しているのですが、高齢ほどとまどうかも…。  
：お互いにできることは協力し合って生活する。  
（男性）：男女が協力し合って、よりよい社会をつくる。  
（女性・男性）：男女がお互いに協力して平等に生活するということ？  
（男性・女性）：それぞれの特性（得意分野）をいかして、協力しあう。
- 60代～70代（女性）：男性・女性の特性をいかして、地域や家庭で生活すること。



## 男女共同参画の目指すもの

「男は仕事（外）、女は家庭（内）」等のように、性別を理由として役割を固定的に分ける考え方にとらわれず、自分の意思により人権を尊重しながら個性と能力を発揮することができる社会を目指します。

そのため、政策・方針決定過程に男女が社会での対等な立場で参画し、自分らしい生き方が選択でき、あらゆる世代において仕事と子育て、介護、地域活動などが両立できることが求められています。

編集委員の感想

## Q3：家庭の中で「男だから」「女だから」といったことで、差別かな？と思ったり、理不尽に感じたことはありますか？

- 20代～30代（女性）：夜中、授乳をしているとき夫は「うるさい」からと、隣の部屋に行ってしまう。また、私も仕事をしているのに、子どもが病気の時、病院へは「お前が行け」と言う。  
（男性）：ない。妻は家事と子育てとで大変なので、自分は弁当箱を洗うとか、夕食は作れないので片づけをしている。男もできることはすべきと思う。
- 40代～50代（女性）：ある。自分が仕事をしながら、家事のほとんどをやっているから。  
：ある。夫の母が同居しているので、夫に家事を頼みにくい。  
：ない。夫が頼めば何でもやってくれる。  
（男性）：ない…が、妻はあると思う。専業主婦の妻に全て任せてきたから。  
：ない。男でもできることは家事を分担してやりたいと思っている。
- 60代～70代（女性・男性）：あまり感じたことはない。



## Q4：これから先、家庭内ではどうしていきたいと思いますか？

- 20代～30代（女性）：今さら期待しないが、大変そうなときは互いにうまくカバーしてできるようにしていきたい。
- 40代～50代（男性）：せめて自分のことは自分でしたり、できる範囲で協力したい。  
：家事を分担してやれば時間もできるので、家族で出かけたりする時間をたくさんつくりたい。  
（女性）：少しずつ。夫にも意識を持って協力してほしいと思っている。  
：今のままでいきたい。この先、親の介護も一緒にやりたい。
- 60代～70代（男性）：退職後は時間があり、やれる人がするようになった。家事一般・簡単な料理なども覚え、作れるようになった。

今回は私たちに一番身近な家庭内での男女共同参画について、年代別にインタビューしてみました。どの年代の方達も、家庭内ではお互いのできることは協力しあって生活するのが良い、という意識は持っているようでしたが、特に若い世代では、実際に家事も育児も自然に分担してやっている家庭が多く感じました。忙しい日常の中でも、せめて自分のことは自分でしたり、お互いに思いやりを持って、得意分野をいかしながら協力していきたいという男性の言葉が印象に残りました。これを機会にみなさんの家庭でも考えてみませんか？

加藤 智子

# インフォメーション

開催  
しました！

女と男21世紀セミナー

## 「防災と災害復興と男女共同参画」

6月30日（土）塩尻総合文化センター

- ・オープニング 塩尻市消防音楽隊による演奏
- ・事例発表 「奈良井女性消防隊の活動について」
- 「防災への取り組み（高出四区）」
- ・講演 「防災・復興と多様性を活かした地域づくり」

山地 久美子 研究員

（関西学院大学 災害復興制度研究所）

災害時の教訓を基に、防災や災害復興に男女共同参画の視点を取り入れる重要性を考えるためのセミナーが、女と男21ワーキンググループの企画・運営により開催されました。

事例発表では「奈良井女性消防隊の活動」として、小嶋恵子隊長と荻村千登世副隊長が、地域防災の取り組みについて発表しました。毎月20日の夜警、お年寄りへの声掛け運動等、コミュニティとの連携を密にし、素早く対応できるようにしているとの事でした。

また、高出四区自主防災隊長を兼ねている武田義徳区長からは、地域の絆を大切に挨拶や毎朝のラジオ体操、また防災訓練の実施等、それらの活動に多くの女性が参画している現状が述べられました。

講演では、山地久美子先生が防災と災害復興について、多様性を生かしたコミュニティづくりについてお話をされました。今回の講演により、それぞれの防災意識が高まり、各地域での防災等の活動につながればと思います。

川上 博昭



## 相談の案内

お気軽にご相談ください

- |                      |                              |
|----------------------|------------------------------|
| * 塩尻市女性相談<br>月・水・金   | 0263-54-0783<br>9:00 ~ 17:00 |
| * 塩尻警察署（生活安全課）       | 0263-54-0110                 |
| * 県松本保健福祉事務所（松本合同庁舎） | 0263-40-1914                 |
| * 県女性相談センター          | 026-235-5710                 |
| * 県男女共同参画センター（あいとぴあ） | 0266-22-8822                 |
| * 児童虐待・DV24時間 ホットライン | 0263-91-2410                 |

## 平成24年度 これからの行事日程

10月11日（木）

大門地区男女共同参画推進会議

時間 午後7時から午後9時

場所 大門公民館

講演 福島明美さん（松本大学専任講師）

平成25年1月下旬 男女共同参画推進企業セミナー

2月初旬 やさしく女と男推進講座

## 編集後記

60代～70代の方にアンケートに答えてもらったのですが、この年代は実に自然に「男女共同参画」を実践しているように思いました。家事も分担できていて、将来一人になってしまった時のことを考えてのことと思います。家庭菜園をする人、料理を学ぶ人、蕎麦を作りそれを打って地産地消と誇らしげに話す人などです。女性も男性が家事を分担してくれる分、地域に出て趣味や講座でいきいきと学ばれているように思います。

赤羽 すえみ

20代～30代の若い世代にインタビューしました。男女とも何とか家族生活を幸福なものにしたいとの強い願いがあり、多少の問題は互いに思い合って努力する必要があると感じている人が多かったです。

青木 慶子